

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2014年28週 (7月2週 7/7~7/13)

2014年6月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

ヘルパンギーナ、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、腸管出血性大腸菌感染症、結核、中東呼吸器症候群(MERS)について
病原体検出情報
定点医療機関コメント
ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、手足口病、水痘等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(29)、腸管出血性大腸菌感染症(7)、アメーバ赤痢(3)、侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(1)、破傷風(1)、麻しん(1)

2014年6月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

ヘルパンギーナ(図1)

28週の定点当たり報告数は2.96、27週266人
28週539人(2.03倍)です。

【参考ページ】ヘルパンギーナが流行しています(豊橋市)
<http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/19527.htm>

手足口病(図2)

28週の定点当たり報告数は1.07、27週123人
28週194人(1.58倍)です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

28週の定点当たり報告数は1.68、27週341人
28週306人(0.90倍)です。

咽頭結膜熱

28週の定点当たり報告数は0.53、27週118人
28週96人(0.81倍)です。

腸管出血性大腸菌感染症(表)

愛知県の2014年報告数(診断週別)は、7月16日現在43件(O157 24件、O111 10件、O26 6件、O165 1件、型不明 2件)、うちHUS発症例は3件です。

【参考ページ】腸管出血性大腸菌
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4

結核(図3)

2014年28週までの累積報告数は998例(うち無症状病原体報告者は284例)です。2013年28週までの累積報告数は1,009例(同237例)、2013年総計は1,915例(同468例)でした。

中東呼吸器症候群(MERS)について

【参考ページ】中東呼吸器症候群(MERS)に関する対応について(協力依頼)(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou19/dl/20140516-01.pdf>

中東呼吸器症候群(MERS)に関するQ&A(厚生労働省)
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou19/mers_qa.html

2014年07月16日更新 中東呼吸器症候群(MERS)の発生状況について(FORTH)

<http://www.forth.go.jp/topics/2014/07161619.html>

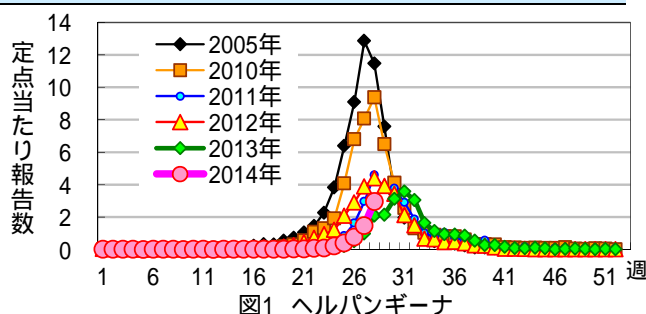


図1 ヘルパンギーナ

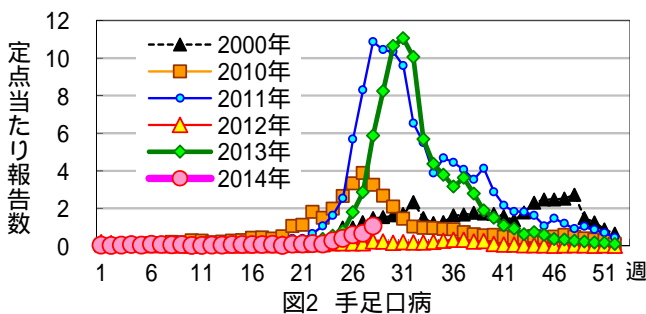


図2 手足口病

表 腸管出血性大腸菌感染症のO血清型別報告数(愛知県、2014年は7月16日現在)

O血清型	2011年	2012年	2013年	2014年
O157	98	99 (1)	128 (2)	24 (3)
O111	1	8	2	10
O26	6	36	45	6
O165		1	1	1
O103		5	10	
O121	3	2	7	
O145	2	3	1	
その他、不明	11 (4)	9 (1)	17 (7)	2
報告数総計	121 (4)	163 (2)	211 (9)	43 (3)

()内は溶血性尿毒症症候群(HUS)発症者再掲

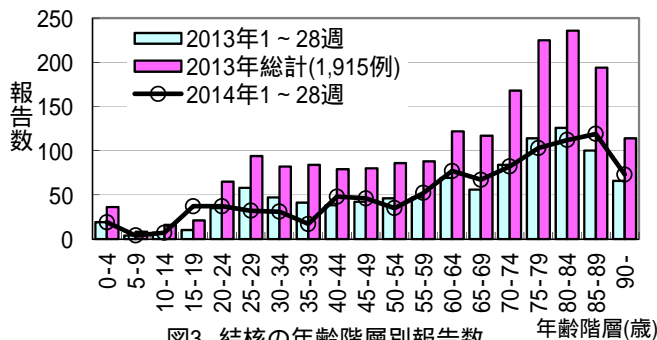


図3 結核の年齢階層別報告数

(愛知県、診断週集計、無症状病原体保有者含む)

病原体検出情報 2014年疾患別ウイルス検出速報 (2014年7月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	* インフルエンザ	** 麻疹・風疹
患者数	149	12	9	12	17	14	8	195	33(35)
CV-A10	-	1	-	-	-	-	-	-	1(0)
CV-A16	-	4	-	-	-	-	-	-	-
EV-71	-	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	-	-	-	-	-	-	-	-	3(0)
E-6	-	-	-	-	1	-	-	-	-
E-11	-	-	-	-	-	2	-	-	-
E-25	1	-	-	-	-	-	-	-	1(0)
FluAH1pdm09	-	-	-	-	-	-	-	55	(1)
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	56	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	52	1(0)
MuV	-	-	-	-	-	1	-	-	-
MeV	-	-	-	-	-	-	-	-	10(14)
RUBV	-	-	-	-	-	-	-	-	2(0)
Rota A G1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	3	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GI	2	-	-	-	-	-	-	-	-
NV-GII	54	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	3	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
Ad-2	4	-	-	1	1	-	-	-	-
Ad-3	-	-	-	4	3	-	-	-	(1)
Ad-4	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Ad-5	2	-	-	-	-	1	-	-	-
Ad-8	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-41	9	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-54	-	-	-	-	1	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
検査中	16	1	9	4	-	5	-	-	1(2)
陰性	63	4	-	1	10	5	8	32	14(16)

*インフルエンザは2013/2014シーズンの検査結果

**麻疹・風疹の()内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略:ウイルス名(他の略名)

Ad:アデノウイルス、AstV:アストロウイルス、B19V:ヒトパルボウイルスB19、CV:コクサッキーウイルス(Cox.)、E:エコーウイルス、EV-71:エンテロウイルス71型、FluAH1pdm09:インフルエンザウイルスAH1pdm2009、FluAH3:A香港型インフルエンザウイルス、FluB:B型インフルエンザウイルス、MeV:麻疹ウイルス、MuV:ムンプスウイルス、NV:ノロウイルス、Rota A:ロタウイルスA、RUBV:風疹ウイルス、SV:サポウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

<p>感染性腸炎 3歳女 カンピロバクター 10歳女 エルシニア 【一宮市 あさのこどもクリニック】 手足口病、ヘルパンギーナあり 【一宮市 後藤小児科医院】 5歳男 カンピロバクター腸炎 【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】 夏かぜ少しありますが落ちついています。 【犬山市 武内医院】 手足口病 流行続いています。 ヘルパンギーナ 増加しています。 溶連菌感染症は減少しています。 【江南市 みやぐちこどもクリニック】</p>	<p>伝染性紅斑、目立っています。 手足口病 CA6 散発 アデノウイルス、水痘 散発 【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】 水痘が再び増えて参りました。 ヘルパンギーナもあります。 【清須市 丹羽医院】 50代女 サルモネラ腸炎 溶連菌感染症が流行しています。 【北名古屋市 田中クリニック】</p>
--	---

尾張東部地区

<p>今週も溶連菌感染症 流行続いています。 アデノウイルス感染症が目立ちました。 その他 水痘、ヘルパンギーナ 散発 【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】 咽頭結膜熱が散見されます。 【長久手市 医療法人スズムラ眼科医院】 ヘルパンギーナ 22名、溶連菌感染症 10名 と流行しています。 【豊明市 こども元気クリニック】 手足口病、おたふくが流行しています。 【日進市 みやがわクリニック】</p>	<p>水痘は残存しています。いわゆる夏風邪はまだ流行拡大ではなさそうです。 【春日井市 春日井市民病院】 溶連菌 続発 夏かぜ増えてきました。 【春日井市 朝宮こどもクリニック】 手足口病、ヘルパンギーナがやや増加？ 【小牧市 志水こどもクリニック】 5歳男 アデノウイルス抗原定性(+) 感染性胃腸炎が増えてきています。 【大府市 まえはらこどもクリニック】</p>
--	--

西三河地区

<p>百日咳(血液(+))、10か月女、ワクチン未) イムノエース StrepA(+) 5歳男 E.coli(O18)とカンピロバクター 2歳女 【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】 アデノ(+) 4歳男 【岡崎市 にいのみ小児科】 アデノ(咽) 男：4歳3名、3歳、7歳、6歳 女：4歳、5歳 アデノウイルス感染症 目立ちます(8例)。 サルモネラO4群 2歳男 ヘルパンギーナ 増加中 【岡崎市 花田こどもクリニック】</p>	<p>ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症が目立ちます。 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】 アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、手足口病が目立ちます。 【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】 ヘルパンギーナ 24名 水痘 11名 【知立市 宮谷クリニック】</p>
---	---

東三河地区

<p>ヘルパンギーナ 流行中 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】 咽頭結膜熱 36歳 女 【豊橋市 富安眼科】</p>	<p>病原性大腸菌O1 女 11歳 病原性大腸菌O1 男 6歳 【豊川市 ささき小児科】</p>
--	--

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2014年7月16日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun140512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2014年28週報告数			2014年総計(1～28週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	15	4	3	399	105	112
豊田市	1		1	33	5	12
豊橋市	3		1	38	11	10
岡崎市	1	1		31	17	6
一宮	6	1	3	97	21	33
瀬戸	1		1	79	14	28
半田				21	10	5
春日井				48	10	9
豊川				36	14	8
津島				33	10	12
西尾				26	11	5
江南				29	8	8
新城				3	1	1
知多				52	13	17
清須	1			26	4	10
衣浦東部	1			52	14	11
合計	29	6	9	1,003	268	287

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	4歳	女	6/28	7/1	7/3	O157、VT1(+) VT2(+) HUS発症例
2	名古屋市	14歳	女	-/-	7/7	7/9	O157、VT1(+) VT2(+)
3	豊田市	12歳	男	7/2	7/4	7/7	O111、VT1(+) VT2(+)
4	豊田市	42歳	女	-/-	7/8	7/11	O157、VT1(+) VT2(+) 無症状病原体保有者
5	豊田市	27歳	男	7/9	7/10	7/13	O血清型不明、VT2(+)
6	一宮	1歳	男	7/8	7/9	7/11	O111、VT1(+) VT2(+)
7	知多	5歳	男	7/4	7/7	7/7	O157、VT2(+)、HUS発症例

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	55歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内
2	一宮	47歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内
3	一宮	54歳	男	腸管アメーバ症	経口	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	一宮	78歳	男	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	衣浦東部	85歳	男	無	国内

破傷風（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	半田	65歳	男	有	国内

麻しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	一宮	39歳	男	有	国内

6月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [()は無症状病原体保有者再掲。]

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2014年6月			2014年	2013年
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (5)	結核	105 (39)	90 (36)	195 (75)	931 (267)	1,915 (468)
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	16 (2)
	腸管出血性大腸菌感染症	11 (4)	2 (0)	13 (4)	29 (8)	211 (58)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	1	2
	A型肝炎	0	0	0	7	4
	チクングニア熱	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	4
	デング熱	0	0	0	4	14
	マラリア	0	0	0	1	8
	レジオネラ症	2	1	3	23	64
	五類 (18)	アメーバ赤痢	4	3	7	39
	ウイルス性肝炎	2	0	2	7	16
	内訳					
	B型	2	0	2	6	7
	その他	0	0	0	1	9
	急性脳炎	1	0	1	7	25
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	7	10
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	2	9	8
	後天性免疫不全症候群	5	10	15	56	99
	内訳					
	無症候性キャリア	1	9	10	34	64
	AIDS	4	1	5	21	33
	その他	0	0	0	1	2
	ジアルジア症	0	0	0	1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症*	1	1	2	9	13
	侵襲性髄膜炎菌感染症*	0	0	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症*	9	1	10	70	76
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	2
	梅毒	4	2	6	65	54
	内訳					
	無症候	1	1	2	34	25
	早期顕症	2	1	3	27	24
	晚期顕症	1	0	1	4	5
	破傷風	0	0	0	0	5
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	1	1	6
	風しん	2	1	3	16	375
	麻しん	10	0	10	43	25
	総計	158	112	270	1,330	3,022

* 2013年4月1日から、5類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引続き基幹定点把握対象疾患です。同じく5類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年6月			2014年 累計	2013年 総計
		愛知県 <small><名古屋市除く></small>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	99	49	148	796	1,746
	性器ヘルペスウイルス感染症	33	11	44	339	707
	尖圭コンジローマ	22	11	33	178	382
	淋菌感染症	31	24	55	341	708
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	70	8	78	573	1,212
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	2	25	84
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	4	9
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年6月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県 <small><名古屋市除く></small>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年5月12日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (44疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症* (1疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。

